

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	C	配分額	620,000 円
研究課題	グローバリズムの中の民俗学を再構築するための総合的研究		

研究代表者

氏名	所属	職名
岩田重則	人文社会科学系 人文科学講座	教授

研究分担者

氏名	所属	職名
石井正己	人文社会科学系 日本語日本文学研究講座	教授
橋村 修	人文社会科学系 人文科学講座	准教授
出口雅俊	人文社会科学系 人文科学講座	准教授
有澤知乃	留学生センター	講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

21世紀に入り、国際化と情報化による大きな社会変革の時期を迎え、日本の伝統文化の継承が重視されつつある。国際化と情報化に関しては各方面の研究が急速に進むが、伝統文化に関しては人々の生活に関わる基層文化の採集と研究に実績を重ねてきた民俗学の貢献は大きい。その背景には、緊急の調査を実施しなければ、伝統文化が消えてしまうという危機感があった。しかし、収集された資料と研究が社会や教育に活かされることはほとんどなかった。今にして思えば、保存に重点を置きすぎ、活用の配慮が欠落していたことが反省される。そうした状況にあって、今、グローバリズムの中の民俗学を考え、同時代に対する発言力を持つ学問の再構築が急務になっている。

幸い本学には、対象とする地域と分野を異にする研究者が各方面で活動しているので、共同研究を実施し、平成24年3月、平成23年度重点研究費報告書として、『グローバリズムの中の民俗学』(研究代表者 岩田重則)を編集・発行した。その目次は、次のようになっている。

ネフスキーの功績——『遠野物語』と雑誌『土俗と伝説』 石井正己
 地中海マルタにおける集魚装置漁業と魚食文化
 ——漁業・魚食にみるヨーロッパとアジア—— 橋村修
 グローバル化時代における「民俗」の展示
 ——フランス国立民間伝承芸術博物館の移転・改組案を事例に—— 出口雅敏
 長崎華僑と中国文化——地域化とグローバル化の間で 有澤知乃
 朝鮮総督府学務局編纂教科書と民間説話調査に関する考察 金廣植

それぞれの論考では、ロシア出身の東洋学者ニコライ・ネフスキーの残した功績、地中海における漁業民俗と魚食文化、フランスにおける博物館展示の改革、長崎における華僑の芸能を取り上げ、グローバリズムの中の民俗学に関して、歴史的な経緯を踏まえながら現状を鋭く分析している。それらに加えて、平成24年3月に本学において博士(学術)の学位を取得した金廣植が韓国の釜山大学校で所蔵する新資料を発見したので、民間説話調査と教科書編纂の関係を明らかにする論考を収録し、若手研究者の発表の場にもした。

印刷した報告書は順次研究機関および研究者に発送しているが、石井の論考が千葉大学名誉教授の荻原眞子氏によってロシアの日本学研究者に紹介され、高い評価を得た。その結果、平成24年10月にロシアのサンクトペテルブルクにおいて、生誕120年を記念して開催される「ネフスキー会議」への出席が検討されるなど、いくつかの反響が出はじめている。

こうした共同研究は、日本のみならず、今後の学界をリードしてゆく大きな研究課題になるものと確信する。平成24年10月には、本学を会場にして、日本民俗学会第64回年会を開催することが決まっている。研究代表者と研究分担者の5名は企画と運営に携わり、1日目の記念講演とシンポジウム、2日目のテーマ別分科会を担当することが予定されている。従って、こうした成果は個別の論文として発表されるだけでなく、大学としてのまとまりをもって学会に提示するという点で、先例のない取り組みになっている。そうしたことを鑑みて、次年度以降もこの共同研究を継続・発展させてゆくことを検討している。

研究成果発表方法

上記の「研究成果の概要」に明記した。